



プロジェクト課題No.3

次代を担う生産者の育成による 梨産地活性化

写真：R6.4上旬 利府町生育調査ほ

活動期間：令和5年度～令和7年度

対象者：JA仙台利府梨部会 部会員4人（同部会員61人）

チーム員：高橋真紀、伊藤あゆ美、高橋晋太郎

1 課題の背景・ねらい

〈背景・ねらい〉

- J A 仙台利府梨部会員は61人、面積は約20ha。園主の高齢化等の問題があるものの、利府梨の引き合いが強いことから園地承継・拡大が望まれている。
- 支援対象者の4名は、新技術・省力化技術等への関心が高く、重要な担い手として育成することにより産地の活性化に貢献できる。
- 当地域で設立される果樹産地協議会を通じ、果樹経営支援対策事業（国）の活用による産地の維持・発展が図られる。

【令和6年度 定性的目標】

- 基礎的な技術の習得と新技術・新品種への理解が深まる。
- 担い手の交流活動が促進される。
- 果樹経営支援対策事業の活用がなされ、園地の効率化が図られる。 1

2 活動内容

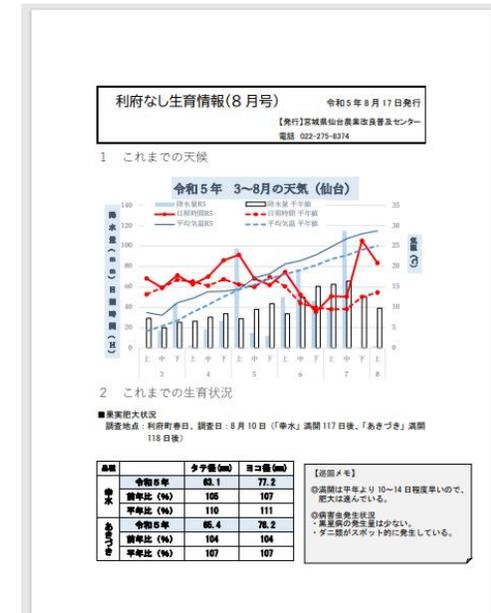
(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

①省力化・新技術導入

目的	期待される効果	内容（技術）
天敵ダニ製剤の活用	環境に配慮した防除と薬剤散布作業の軽減	<ul style="list-style-type: none"> 天敵ダニ製剤の活用方法 天敵ダニに配慮した農薬の選択 下草管理

収穫時期前進 「幸水」の収穫期前進・果実肥大促進 ジベレリンペースト処理

②技術情報資料発行



JAを通じて梨部会員全戸配布

新技術として他に「新品種の導入」「防鳥ワイヤー」「交信かく乱剤（コンフューザー）利用」などがある

2 活動内容

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

③栽培講習会・巡回指導



【県なし現地検討会】

6月 蔵王町でジョイント栽培を中心に研修



【昨年度の栽培振り返り研修会】

2 活動内容

(2) 担い手の交流活動の促進



【視察研修】

新潟県新潟市江南区梨部会の青年部と交流

(3) 産地活性化に向けた補助事業の 活用支援



【利府町農林水産課、J A 仙台と打合せ】

3 これまでの活動成果

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進



【天敵ダニ導入圃場の様子】

樹幹の雑草草丈をやや長めの15cm程度に刈り残し、通路は短く刈り込む。天敵ダニであるカブリダニが生活しやすいよう環境を整える。

天敵ダニを初めて導入、順調に定着したことが農業・園芸総合研究所園芸環境部の虫害チームによって確認。

→導入していない他の園地にも拡大しようか検討している。

導入農家は効果を実感！



その他、「幸水」のジベレリンペースト処理で収穫期の前進と肥大を図る技術を導入した対象者は、ねらいどおりの効果を確認。

3 これまでの活動成果

(2) 担い手の交流活動の促進

- ・新潟市江南区の梨青年部3名と交流、昨年利府で導入した「防鳥ワイヤー」技術に興味があり、来年視察に伺いたいとのことだった。

→梨栽培に関する情報交換や意欲的な他産地の生産者の話を聞き、大いに良い刺激を受けた様子であった。

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援

- ・9月上旬に果樹経営支援対策事業の実施計画策定や申請に向けて準備中（事務局は利府町農林水産課）。

- ・申請予定者は1戸、新規に定植する予定の畑の確認や計測作業の補助を行った。

4 今後の対応

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

- ・引き続き新技術導入の調査支援、効果測定を行っていく
- ・「生育情報」で技術の効果、内容を情報発信する

(2) 担い手の交流活動への理解促進

- ・施肥管理に関する勉強会を開催予定
- ・新品種導入に向けた情報提供の発信

(3) 産地活性化に向けた補助事業の活用支援

- ・来年度に向けて事業活用者のニーズの把握
- ・導入希望者の掘り起こし